



佐藤京一議員

住民主体の公民館づくりをどうすすめていくのか

町長 これまでの検証を行いながら

よりよい制度の構築を検討

■地域コミュニティ  
希薄化への取り組みは

佐藤 地域については、その運営費や税外負担、地域作業やボランティア活動、ゴミの問題など多くの課題があり、町民の間での不公平感もあります。

町として「地域の考えを尊重する」ところから少し踏み込んだ取り組みを行うべきだと思いますがいかがですか。

町長 人口減少や少子高齢化などにより、地域コミュニティ維持が困難になってきている地域もあります。

座談会などを通して地域の考えをお聞きしながら、どのような施策展開が必要か検討していきます。

■地域担当者制度は

佐藤 行政の地域支援として、総務省事業の集落支援員制度や、朝日町で行っている地域担当者制度について、当町にも取り入れていくのか伺います。

町長 制度そのものを取り入れるかは別にして、地域担当職員を配置することの良し悪しもふまえ、集落支援のあり方や地区公民館のあり方も含めた制度設計の検討をすすめています。

■住民主体の  
公民館づくりは

佐藤 住民主体の公民館を目指して行った公民館改革は、予算配分や事業内容は、職員の任用について、行政



たくまクラブのスイーツ教室  
(荒砥地区公民館)

主導から変わっていないように思われますが、町長はどのようにすすめていきますか。

町長 公民館活動に対する意識の高まりや協力体制がより強くなったというご意見もいただいています。

より多くの地域の方々に参画をいただける仕掛けづくりが必要であり、これまでの検証を行いながらよりよい制度構築に向けた検討を行っていきます。

■分館の維持運営に支援を

佐藤 行政としての「分館」の位置づけはどのように考えていますか。また、建て替えや増改築・修繕における行政としての支援を、どのように考えているのか伺います。

教育長 現在76の分館があり、設置の単位や経過、運営形態もまちまちなことから、地域の自主性、自治を尊重しながら、その活動を支援しています。

「地区公民館分館施設整備費補助金交付規程」では、総事業費50万円以上に対して、新築では27%、それ以外は18%以内の補助を行っています。要件の緩和も含め支援の枠を広げていくよう検討しています。